

週日の説教

金 大烈 神父 2008年12月26日(金)

《生と死、それは一つの線》

今晚は。今日は少し風が強かったですね。

さあ、今日私は何故赤い祭服を着ているのでしょうか。そう、今日は聖ステファノの殉教の祝い日だからです。昨日は何の日でしたか？ クリスマス、主の御降誕祭でした。では何故、教会は御降誕を祝う次の日に、殉教者の祝い日を決めたのでしょうか。実際に12月26日にステファノが死んだわけではありません。歴史的に何日に殺されたか分かりません。赤ちゃんであるイエス・キリストが来られた翌日、もっとその誕生を楽しく嬉しい気持ちで祝っても良い日なのに、何故イエス様の為に殺された最初の殉教者、ステファノを記念する日と定めたのでしょうか。何故私はこの様に赤い血の色を表す祭服を着て、皆様とミサを捧げているのでしょうか。

これは、24日の夜に申し上げた様に、一連の流れだからです。裸の赤ちゃんとして来て、そしてその後ろに見える祭壇で、私達の為に自らを生け贄として捧げられるイエス・キリストの人生。そしてその結果。どんな時にも変わらない姿を見せている十字架に架けられているキリスト。私達が考えなくてはならないのは、信仰というものは、"この流れ"を考えなければ本当に悟る事が出来ない事です。何故なら"良い事"があった時には神様に感謝するかもしれませんが、自分に試練だと思われる時、負担だ、重荷だと考え、直ぐ逃げ出してしまうその理由は、この様な流れで私達は私達の信仰の道を生きていないからです。何があっても、どんな難しさがあっても、私達は"共"に考えなければなりません。"誕生"というものは"死"と共に考えなければなりません。誰かが生まれたら、その人が死ぬまで良い人生を送るようにと願うのが私達信仰者の態度ではないのでしょうか。そして自分が天に召される立派な祝い日を迎えても、"変わるもの"と"変わらないもの"とを識別する、その目が無かったら、真の喜びとしての意味では理解していない事になります。ですから、私達はいつも"この流れ"の中で、自分の信仰を理解出来なくてはならないと思います。

倒れる時もあるでしょう、立ち上げられる時もあるでしょう。面白くない事、いらいらする事もあるでしょう。感動に満たされ、「今死んでも良い」という信仰的に溢れる時もあったでしょう。全ての事を"一つの線"の上に見てください。そうでなければ私達は崩れます。良い事も悪い事も、嬉しい事も悲しい事も、同じ人生の一つの流れの中でご覧にならなければならない。ですからイエス・キリストの誕生と共に、今日この祝い日が決まりました。

さあ、次の話をしてみましょう。ステファノが石で殺される前に、跪いて何と言いましたか。『「主よ、この罪を彼等に負わせないで下さい」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って眠りについた』と聖書にあります。そして私はミサが始まる前「聖ステファノを記念して祈ります。聖人の模範に倣う私達に、敵をも愛する恵をお与え下さい」と祈りました。皆様、私達の人生の中で、この様な時が来るのでしょうか。ステファノの様に人々の前で、イエス・キリストを表わす機会が現れるのでしょうか。殆どの信者は与えられません。殉教者達はその様な意味で"恵まれた者"と呼ばれます。大体私達は仲間の内で人生を終えます。敵に会う事は殆どありません。この人生の中で"敵"と呼べる者はいるのでしょうか。いないと思います。ある意味でイエス・キリストの為に殺されるこの様な人々、聖人達の人生は、特別に恵まれている人に与えられる人生だと思えます。大体の人々、私達には"敵を愛する"機会さえ与えられていません。私達は本来愛すべきもの"仲間"である人々を憎んでいるのです。

家族の事を考えてみて下さい。兄弟の事を考えてみて下さい。友達の事をよく考えてみて下さい。同じ信者としての関わりを考えてみて下さい。同じ信仰を持ち、同じ信仰告白をしているのに、「あな

たは私の敵ですから、私はあなたを愛さなければならないのです」と叫ぶの事がありえるのでしょうか。おかしいのではないのでしょうか。

当然の事として、また自然に仲良くしなければならない関係にある私達は、何故この様に憎しみ合い、自分を少しずつ殺して行くのでしょうか。ゆるしの部屋に入ると "憎しみ" が 90% でしょう。

"憎しみ" によって心を痛める人が多いです。しかし司祭の立場で見ると、それがそんなに憎まなければならない事なのかと思ってしまう場合があります。多分あなたが憎んでいる人もあなたの事を同じように思っているという気がする事が殆どです。そしてゆるしの部屋に入ると、自分の罪について告解する事より、無意識的に、自分をこの様に痛めたその人を訴える様な "告解ではない告解" をしている人が結構います。「"あの人" の為に私はこの様に罪を犯しました」と、必ず "あの人" を道連れにします。その様な癖が私達にはあります。その事をよく考えて下さい。

皆様、皆様の命が終わるまで、本当に憎まなくてはならない人に出会う機会は無いと思います。しかし実際に今憎んでいるその人達は、よい所を見つけながら、親しみを持って兄弟として付き合いなければならない相手である事をよく考えて見て下さい。私達が無意識的に発してしまうその言葉によって、誰かが悩んでいるかも知れません。今日のステファノの様な、立派なそして恵まれた殉教の機会があるかどうか分かりません。

しかし、小さな事、私達が日常の生活で出会う全ての事、その事で少しずつ殉教の精神を身に付けようとしなければならないと思います。

皆様、ご誕生の時も、今日もイエス様は私達の為に生け贄として、ご自分を捧げられました。その様な心が私達に少しずつでも訪れて来るように祈りましょう。

ありがとうございました。